



ひばり

長い夏休みが明け、2学期が始まりました。各ご家庭での色々な過ごし方があったかと思います。子供たちから話が聞けることを楽しみにしています。生活リズムが夏休みモードから学校モードに整うまでに時間を要する場合があります。お子さんと相談しながら早めに戻せるように工夫していただければと思います。

2学期は、大きな学校行事があります。いつもと違う学校生活に戸惑うことがあるかもしれません。お子さんの様子で気になることがありましたら、担任の先生や「ひばり」に早めにお知らせください。安心して学校生活を送れるよう、一緒に考えていきたいと思っています。

2学期もご家庭・在籍学校と連携し、指導していきます。よろしくお願いいたします。

☆2学期の予定☆

※当初の予定より変更がありますのでご確認ください。
近くになりましたら連絡ファイル等でお伝えします。



《2学期の指導期間》

○9月 1日(金)～12月18日(月)

《保護者参観日》

基本は小集団の時間を参観していただきます。
(個別学習のみの方は個別学習を参観)

※連絡ファイルにて見学的时间が何時間目か
お知らせします。

- 住吉小 10月30日(月)
- 矢崎小 10月31日(火)
11月1日(水)
- 南町小 10月20日(金)
10月26日(木)

《保護者会》

- 矢崎小学校 12月20日(水) 9:30～
- 南町小学校 12月21日(木) 9:30～
- 住吉小学校 12月22日(金) 9:30～

《2学期の指導がない日》

- 火曜通室児 10月10日(火)、11月21日(火)
 - 水曜通室児 10月18日(水)、11月29日(水)
 - 木曜通室児 11月 9日(木)
 - 金曜通室児 10月6日(金)、11月10日(金)
- ※4月にお伝えしたのから変更しています。

《指導曜日の変更》

指導回数調整のため、10月10日(火)、11月21日(火)を月曜日の通室児童の通室日とします。通室時間は変わりません。



※予定を変更する場合がありますので、ご了承ください。

変更がありましたら、連絡ファイルや教室便り、スクールメールでお伝えします。

☆9月の学習予定☆ 以下の中から児童の実態に合わせて活動を選んで学習します。

	基礎的指導	発展的指導
小集団学習	<p>【発達段階を追った指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己表現 「日直のスピーチ」 「一言感想」 ルールや順番を守る 「おやつすごろく」 身体の動き 「雑巾運動」 <p>【即応的指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆キーワード「まあいいか」 ソーシャルスキル 「発表の聞き方」 「友達とのかかわり方」 	<p>【発達段階を追った指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> 非言語での表現 「ジェスチャー」 非言語への意識 「はあって言うゲーム」 「表情から想像しよう」 気持ちについて考えよう 「気持ちぴったんクイズ」 <p>【即応的指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> おみくじトーク ソーシャルスキル 「雑談の仕方」 「こんなときどうする？」
個別学習	<ul style="list-style-type: none"> 個に応じた学習 	<ul style="list-style-type: none"> 個に応じた学習



ひばりコラム

「子どもの感情的な言葉への対応について」

日常生活の中で、親から注意されたり、行動を制止されたりすると「ばか」「むかつく」「しね」のような言葉を発してしまうお子さんがいます。親は本意でない分かっていても、その言葉に反応し、「なんて言葉を使っているの!」「誰に向かって言っているの!」と返してしまいがちです。

ひばり教室でも、教員や友達に対する発言からトラブルに発展する場面があります。どのように対処するかは時と場合によりますが、このように捉えるようにしています。

① 言葉自体に取り合わず、やってほしいことを穏やかに伝える。

言葉自体を取り上げ過ぎると、トラブルがさらに続きます。そのときにやってほしいことを穏やかに淡々と伝え、少しでも行動の変化があつたら、そのことを褒めています。

② 嫌だった気持ちを受け止める言葉をかける。

「本当は、今からやろうと思っていたんだよね。」「途中で止められていやだったね。」と、気持ちを推測して言葉にして返します。分かってもらえたことで、少しずつ落ち着いていきます。

③ 言われた側の気持ちを伝え、良い言い方を教える。

「その言葉は、悲しかったな。いやな気持ちが出たよ。」と、教員や友達の気持ちを伝えています。「今度からは、“今やるから”“待ってて”の方がおすすめだよ。」と言って、次の機会に期待します。

「こんな対応できない!」と感じた保護者の方がいらっしやると思います。もちろん、毎回は難しいかもしれませんが、できる時に少しだけで大丈夫です。“やってみたら～だった”をぜひお知らせください。

※参考文献 「学校と家庭で育てる生活スキル」伊藤久美著 本の種出版